

## 首都圏誘客推進室が新たにできました！

いよいよ平成二十七年春の北陸新幹線金沢開業まで2年を切り、首都圏からの誘客にこれまで以上に積極的に取り組んでいくため、この4月に観光魅力の発信や誘客対策の拠点として、石川県東京事務所内に新たに「首都圏誘客推進室」が設置されました。

これまでの1名体制から3名体制に増強され、県庁で県人会などを担当していた石川室長、大阪事務所で誘客を担当していた堂前室次長、旅行会社出身の小幡誘客担当の3名の新メンバーでスタートしたところです。

奥能登応援団としても、石川の応援団の一員として首都圏誘客推進室と連携しながら盛り上げていきたいと思えます。

〈石川県東京事務所 松原所長コメント〉

四月から新たなメンバーが加わり、新年度がスタートしました。首都圏誘客推進室とも連携しながら事務所一丸となってふるさと石川のために頑張ります。

皆様との交流も楽しみにしておりますので、近くへお越しの際は、お気軽に事務所へお立ち寄りください。



〈東京事務所と首都圏誘客推進室の皆さん 前列右端が松原所長〉

「東京奥能登応援団のホームページ」アドレスは <http://okunoto.net> です。

## 「いぶむ

## アイデンティティ

⑩

世界農業遺産の象徴

「白米千枚田 Sirojone Sammada Rice Fields」

奥能登外浦の地形は山裾が海岸へ急勾配で迫っている。その狭い土地を隈なく切り開き幾重にも階段状に織り成し耕作している棚田がある。この度、地域ならではの景観として世界農業遺産に認定された代表的な「白米千枚田」である。

ご承知のように、棚田の総面積は二八・〇三六平米、田の数は全部で一〇〇四枚、極小田圃はなんと五〇×五二センチメートルで稲六株というミニサイズのものもあり、蓑で覆われてうっかり仕事残しになったこともあったという。それらは高低差約五六メートルで幾何学模様を描くように敷き詰められ海際まで広がっている。当然のことながら水が必須なのだから、千枚田の周りには二つの用水路、無数の網目状の水路、上段から下段へ給水する竹筒などが施され稲の生育に最適な工夫がされている。

なにしろ、平地の少ない舞台で暮らしてきた奥能登人の環境や地形に合わせ生きるしぶとくしなやかな生き方の知恵を感じるのである。今日、田植えや稲刈り体験、田の中の結婚式、十月上旬のライトアップ「あぜの灯り」、十一月中旬～十二月下旬のLEDライトなどのイベントの輝きが世界に誇るブランドを生み出さんとしている。さればこそ、先人の生きる糧として自然を畏れ敬い恵みを生かす汗と努力の結晶であることを忘れてはならない。

そして、現在耕作農家は僅かに三軒であるが、それ以外の田はオーナー制度「愛耕地」が管理しているという。旅人としての目だけではなくオーナー会員となって、世界農業遺産の「白米千枚田」を守る担い手になることも考えられるのである。

(押上武文〈府中市・宝立町出身〉)



全国「ご当地とんぶり選手権

珠洲市 レストラン浜中「香箱力二丼」五位入賞

一月十二日から二十日まで、東京ドームにおいて「ふるさと祭り東京」が開催され、そこで行われた「とんぶり選手権」でレストラン浜中の能登丼が全国の並み居る強豪を相手に健闘し見事に五位入賞を果たしました。

地元珠洲からは、二陣にわたる応援ツアーが上京し強気に後押ししたのはもちろん、関東在住の東京珠洲会や飯田高校同窓会を始め石川県人のふるさと会の皆さんも大勢応援に駆け



やったぜ！ 歓喜の浜中康男シェフ

付けてくださいました。

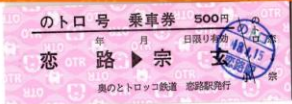
中でも石川県人会ふるさとフェスタ推進委員会のスタッフ延べ三十人の皆さんが厨房の手伝いなど惜しみない協力を寄せてくださいました。

次回出場のスード権を獲得した浜中さんは支援をしてくれた人たちに感謝の言葉を述べながら来年に臨む決意をあらたにしています。

また北陸新幹線開業の宣伝看板の下では、すずなりの皆さんが運営する物産展コーナーが来場者の人気を集めていました。

※香箱力二とは、身の詰まった雌の加能力二のことです。

写真右はドームへ支援に駆け付けた応援ツアー・ふるさと会の皆さんと商工会議所今井会頭  
下は宗玄酒造で人気の奥のとトロッコ鉄道



新刊案内

《殺意の赤い実》 平家伝説ミステリー

八百年余の歳月を経た今も脈々と平家伝説が息づく故郷能登半島。そこを舞台に伝説にまつわる殺人事件のストーリーが展開されていく。息もつかせぬ著者入魂の一冊。ぜひ一読を！

〈著者 櫻田 啓 主な作品に「青の洞門」「幻のシバング 大友宗麟の生涯」など PHP文芸文庫 定価650円〉



編集後記

4月から旧能登有料道路がのと里山海道に改称・無料化され、とても走りやすくなりました。4月13日から15日までの日程で催行された首都圏からのモニターツアー一行に供された能登のふく料理が参加者に好評で地元紙にも紹介されました。